

魅力

自然

歴史・文化

温泉・リゾート

芸能・スポーツ

まちめぐり・まち景観

体験・イベント

世界遺産「白神」の自然と地域の伝統を活かして滞在力を向上

青森・秋田県にまたがる世界遺産「白神山地」の広大なブナ林の散策、桜の名所として有名な弘前城と城下町めぐり、平成10年約80年ぶりに復活した五所川原の立佞武多（たちねぶた）等の多様な観光資源。そこに津軽三味線やねぶた祭りの伝統が息づく。個性豊かな「津軽」に魅了される観光客は年間約1,500万人（宿泊者数90万人強）。



白神山地美山湖

入込客数

平成14年(2002)	1,368万人
平成15年(2003)	1,522万人
平成16年(2004)	1,515万人
平成17年(2005)	1,544万人
平成18年(2006)	1,520万人

宿泊者数

平成14年(2002)	95.7万人
平成15年(2003)	97.3万人
平成16年(2004)	89.3万人
平成17年(2005)	98.5万人
平成18年(2006)	94.3万人

青森県統計

※弘前市、黒石市、五所川原市、鰺ヶ沢町、深浦町、西目屋村の合計

取組

PR・誘致活動

案内・情報提供

景観保全・環境整備

人材育成

体験・イベント開催

広域連携の促進

世界遺産「白神山地」



白神山地の体験

白神山地は、平成5年世界遺産に指定された。中核区域は入山規制され、周辺区域と隣接の津軽国定公園区域にてブナ林の散策が可能。西津軽地区の観光入込客数はこの5年で約50万人増の約370万人となり、十二湖公園だけでも約51万人の入込客数がある。鰺ヶ沢町及び岩木山麓周辺ではNPOにより廃校を活用した自然学校の取り組みを行っている。同NPOにより、自然体験プログラムの実施、インストラクター育成、地元農産物の販売や植林・間伐等森林の保護活動が実施され、都市との交流を造成している。

城下町弘前

弘前コンベンションビューローを中心に各種イベントを開催して情報発信を行うとともに、「ひろさき検定」や弘前城ボランティアガイドの活動も実施している。また、平成14年にリニューアルした弘前城近くの「津軽藩ねぶた村」では、ねぶた、津軽三味線、伝統工芸等が見学、体験が可能となっており、修学旅行にも活用されている。城下町巡りには、市内100円均一の循環バスが便利である。

伝統の復活

五所川原市では、高さ約20mの立佞武多（たちねぶた）を復活させ、東北四大祭りに並ぶ約170万人の人出があり、また、常設展示と工房を兼ねる「立佞武多の館」で、観光客も製作行程に参加可能とし、年間約14万人の入館者がある。日銀調査では、5日間の祭りによる経済効果は約100億円とされている。



立佞武多

本場の津軽三味線

五所川原市の「津軽三味線会館」、弘前市の「津軽藩ねぶた村」等では、一流、若手による津軽三味線の演奏が毎日、実演され、力感あふれる叩き、繊細な弾き、生演奏の調べは聴衆を魅了している。また、繁華街では三味線演奏を楽しめる飲食店も多く、郷土料理、地酒と音楽が満喫できる。

旅情あふれる列車

田園地帯の約20kmをのんびり走る津軽鉄道では、冬期はストーブ列車が1日2本運行されている。車内には、ダルマストーブでスルメをあぶりながらの乗客の津軽弁での語らいがあり、車窓には銀世界が広がる。夏期は俳句の短冊をつけ風鈴列車となる。秋は駅員の育てた鈴虫の虫籠を乗せ鈴虫列車として運行している。また、白神山地沿線のJR五能線では「リゾートしらかみ」が運行されており、四季折々の白神の景観、日本海の夕日を堪能できるよう展望車両が用意され、車内では三味線演奏、津軽弁の語り部実演のイベントを楽しむことができる。